

# 両ダンゴの浅ダナ釣り (タナ1m前後)

## ●吸い込み重視の軽ネバ仕様

特S200cc+パウダーベイトヘラ200cc+水100cc+浅ダナー本100cc



+



+



+



●作り方「特S」200cc「パウダーベイトヘラ」200ccを粉の状態混ぜ合わせ、水を100cc入れる。全体に水が浸透した後、若干指先にネバリを感じるまで混ぜ

る。これがポイントで、回数にして30回ほど。その後2～3分放置して「浅ダナー本」100ccを振りかけ、全体に混ぜる。このときは、あまり練らないこと。

## ●釣り方のコツ

浅ダナ釣りでは、エサをどれだけ自然に落下させ、アピル度を高めるかがポイント。そして、エサが固まったまま落下するのではなく、ユラユラと糸を引くようにバラケさせるようにする。その効果でへら鮎が寄り、食い気が立つようになる。

ベースエサはあくまでも軽いものを中心にし、エサのまとまりは「特S」、ネバリの強弱は「パウダーベイトヘラ」

が担う。「浅ダナー本」は細かな粒子が水中で舞い、食い気を誘う役割だ。

釣り方のポイントは、この軽くネバリのあるエサを使用し、早いタイミングで「追わせ」て食いつなげるイメージが重要になる。そのため、深くなじませてじっくり待つような釣りではなく、サワリが弱ければ、すぐに次の一投を入れ、へら鮎を常に刺激していくようにする。

エサのサイズは直径1cm位で、あまり大きくハリ付けすると、食いアタ



ると、食いアタリの出るタイミングが遅くなる。テンポよくリズムカルな打ち返しがこの釣りのポイント。9月上旬もガンガン狙える時期なので、トライしてみよう!!

## ここがポイント

### アタリが少ない、出ないとき

浅ダナの釣りでは水面直下にいる魚の動きがダイレクトにウキに現れるため、エサがハリ抜けしていても「なじみ幅が出る」ことがある。そんなときの即効薬は硬めのボソエサで、確実にエサを持たせることで一気に活性が出ることも多い。

まずはベースエサに膨らみを持たすことが大切。このときに

一番相性のよいエサが、「GTS」で、ベースエサの一部に上から振りかけて数投打ってみる。この手直しの方向でウキの動きがよくなれば、今度はエサ全体に「GTS」を振りかけ、若干ボソとしたタッチに微調整してみよう。水中での落下速度とエサのバラケ性が変わり、へら鮎が反応するはずだ。

#### ■手順

- ①ベースエサの一部に「GTS」を振りかけ、押しネリで混ぜ合わせる
- ②エサのサイズは変えないで打つ
- ③エサ表面のボソッ気を生かして若干クラブにハリ付けする
- ④このエサでウキに動きが出たら元に戻す、の繰り返し



## ここがポイント

### アタリはあるのに釣れないとき

アタリがあっても釣れないのは「エサが硬い」「サイズが大きい」が考えられる。吸い込みにくいことが致命傷の浅ダナの釣りは、ソフトで吸い込みやすいエサを基本にしたい。アタリがあるということは確実に魚はいるので、後は「硬さ」「サ

イズ」の微調整をするようになる。

そんなときには、まずベースエサの一部に手水を打ってヤワネバタッチに変えていく。その場合、今度はエサ持ちが悪くなるのでここでは「BB」を振りかけてエサの持ち方をよくする。

#### ■手順

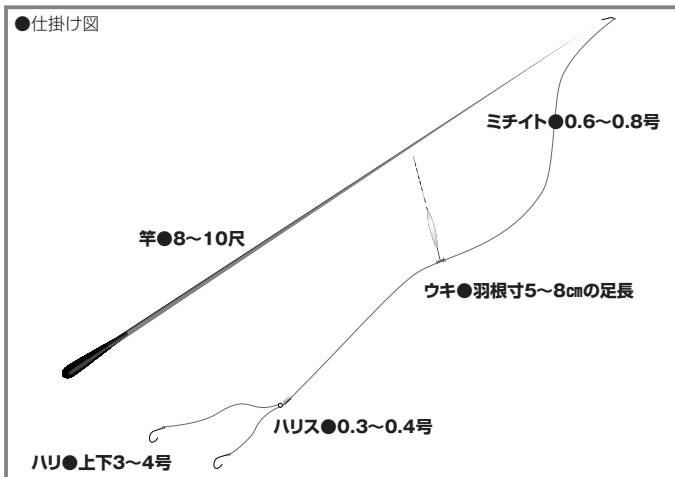
- ①まず、使用しているエサに手水を打ってエサを練り込み、ネバリでエサを持たす
- ②さらに柔らかいタッチにするときは、練るだけでは持たないため、バインダー役の「BB」を振りかける
- ③練り方も「押し練り」「握り練り」「擦りつけ」と3パターンを順を追って変えることで正解の粘り加減が見つけられる



## 基本セッティング

よりシンプルでエサを自然落下させるためにはセッティングも重要で、ミチイトは0.6~0.8号、ハリスは3~4号を使用する。時合によってハリスの長さは異なるが、基本のセッティングは上20cm、下27cmで、糸ズレが多ければ短くし(上15cm、上21cm)、サワリが少ないときには長くする(上25cm、上32cm)。ウキは立ちの速い「脚長タイプ」で、トップの仕様はパイプ、ムクを使い分ける。パイプトップの場合には比較的なじませ気味にして釣るときで、ムクトップの場合は落ち込みの釣りに適している。

●仕掛け図



## エサの大きさ

実寸大



①ラフ ②ややラフ ③俵型 ④丸型 ⑤細長

直径では1cm位だが、この浅ダナ釣りでは水中落下の変化をつけるため、サイズよりも形状がポイントに

なる。5タイプのエサ付けにより常に魚を刺激して、食い気を誘い釣り込むことができるようになる。

## オモリ

1cm×1.5cm

実寸大

0.25mm厚の板オモリで1cm×1.5cmを基本にし、これ以上軽いものは、へら鮎のウズリと使用できるエサの範囲を狭くするため避けたい。まだまだ活性のある時期なので、ある程度浮力のあるウキを使用した方が釣りやすい。

## 浅ダナエサの特徴—基本は軽めのエサを使うこと



### 特S

エサのまとまりを出し、スイミー効果で、集魚力の高いペースエサ。



### パウダーバイトヘラ

ネバリの強弱を練り加減でつけることができ、単品でも使えるマルチエサ。



### 浅ダナー本

細かな粒子が水中で舞い、食い気を誘う。エサをまとめる役割も担う。



### GTS

へら鮎の活性を上げ、ウキを動かすボンズ気を出せる軽くバラける特徴を持つ。



### バラケバインダー

軽くて粘りのある魅が、エサ全体のまとまり、つなぎの役割を果たし、ハリ持ちがよくなる。